草原に人が関わるしくみをつづけること。

グリーンストックとは「緑の生命資産」。阿蘇の広大な緑の大地というかけがえのない財産を、都市と農村、企業と行政の四者の連携によって後世に残していく。それがグリーンストック運動だ。山内康二さんは理念に共鳴し、立ち上げから参加した。新聞に草原の野焼き作業の人手不足が深刻と報じられ、都市の人びとのボランティアが組織された。「当初はケガでもされたらたまらん、と地元は冷ややかだったのですが」定着するのに三年も経たなかった。使命は草原に人が関わるしくみをつづけることに尽きる、というのが「緑の生命資産」を守る専務理事の信念だ。

阿蘇グリーンストック　山内康二

ハナシノブが泣いている。

絶滅危惧種に指定される薄紫の楚々としたハナシノブは小学校校長だった瀬井純雄さんにとって特別な花である。生物学専攻の大学生時代、この花を求めて阿蘇を彷徨した。卒業後、中学校の理科教師になってからも、「朝四時に起きて草原をぐるっと調査してから登校するという日々」だった。熊本日日新聞に「ハナシノブが泣いている」と、取り上げられブレイク。当時の細川護熙熊本県知事が着目し、全国初の希少野生動植物保護条例の制定へと繋がった。「草原は手をかけなければ死にます」。花に心を奪われつづけてきた人は穏やかにきっぱりと断言する。

阿蘇花野協会
瀬井純雄

若者たちの胸に、熱い自信が育っていく。

これからの農業は地域を支えなければならない。コミュニケーションの体験を積んで、地域全体を背負うことができる子を育てることが肝要。そう主張するのは阿蘇中央高校農業科で教鞭をとる後藤至成さん（写真中央）。熱血先生だ。阿蘇の米の優秀さを全国に示したくて出場した「全国農業高校お米甲子園」で金賞二回、特別優秀賞二回の快挙。生徒たちと粘り強く開発した白いイチゴ「あその小雪」。それらが若者たちの胸に熱い自信を育てた。授業は農場、放課後は硬式野球部の監督として毎日グラウンドに立つ。「こうちの甲子園はまだ実現していませんが」。

阿蘇中央高等学校　後藤至成

火の国阿蘇の
恵みのブランド

然 zen
Aso City

- 阿蘇の自然を舞台にした人びとの営みこそ大きな力を持っている、という考えで2013年秋にスタートした「火の国阿蘇の恵みのブランド−然」。活動の広報として、お一人お一人のポスターを制作しています。
- 「然の人びと」は現在も取材進行中です。輝いている阿蘇人をどしどしご紹介ください。自薦他薦を問いません。

あるがまま、という貴さ。
人と自然が共作する阿蘇。

然についてのお問い合わせは、
阿蘇市「草・観・然」活性化事業推進会議事務局
（阿蘇市観光課）
TEL. 0967-22-3174 ／ FAX. 0967-22-4566

aso-zen.com

広報あそ　平成27年10月号
public relations magazine No.129

CONTENTS　もくじ

04　特集　大解剖！阿蘇のあか牛
09　阿蘇中岳噴火関連情報
10　10月7日から市政報告会スタート
11　田空通信 ～自転車でサテライトを巡ろう！～
12　マイナンバー ～通知カードをお届けします～
14　まちの話題
20　陸上自衛隊高等工科学校生徒採用試験／食改だより
21　人権作文　▶後藤壮輝さん
22　市役所からのお知らせ
　▶巡回狂犬病予防注射／10月31日・11月1日
　▶インフルエンザ予防接種
24　暮らしの情報
30　自慢の学校　▶山田小学校
31　図書館へ行こう！
32　くらしカレンダー・お慶び・ご寄付
34　公民館の分館活動紹介　▶宮地分館
35　地産地消クッキング
　▶かんたんポトフ
　さわやかフレッシュマン　▶後藤麻里さん
36　阿蘇ジオパーク探訪
　▶阿蘇黄土ジオサイト

今月号の表紙

阿蘇を象徴する動物といえば「あか牛」。阿蘇では生産者の減少とともに、あか牛も年々減っています。

一方、健康志向ブームによりヘルシーで美味しいあか牛が近年、注目されています。

私たちの大切な阿蘇の宝「あか牛」について、改めて考えてみませんか。今月号はあか牛特集をお届けします。

夢を追いかける青少年の声を届けます ―

夢を追いかけて

私の将来の夢は、医療関係の仕事に就くことです。医療関係の仕事は、人の心も体も救える仕事だと思います。この仕事に就きたいと思うようになったのは、妹が４才のときに病気で亡くなったからです。自分は何もしてやれなかったという悔しさと悲しさがありました。

だから私は将来、医療関係の仕事に就いて、妹のような重い病気の人や病気で暗い気持ちになっている人たちの体や心を救うことができるようになりたいです。

下村　彩葉

しもむら いろは／阿蘇小学校・６年

chase a dream No.21　Iroha Shimomura